

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立磯路小学校協議会

I 総括についての評価

委員に年度目標に対して、A・・十分に達成している B・・概ね達成している C・・改善を要する の3段階で評価をしていただいた。

「安全・安心な教育の推進」の達成状況については、学校の自己評価はBであった。外部評価は6名の委員のうち、B 6名で、概ね達成しているとの評価をしていただいた。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」の達成状況について学校の自己評価はBであった。外部評価は、6名の委員のうち、B 6名であった。全体には概ね妥当であると評価をしていただいた。

「学びを支える教育環境の充実」の達成状況について学校の自己評価はBであった。外部評価は、6名の委員のうち、B 6名であった。全体には概ね妥当であると評価をしていただいた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R4 0.9% → R5 1.4%

・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

※改善とは、次の状態の場合をいう

1名 改善

1. 出席日数の増

2. ICTの活用による、本人、保護者と学校がつながる回数が増えた

3. 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R5 85.6% R6 86.3%

・「学校生活アンケート」（児童向け）で「学校は楽しい」の項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

R5 89.0% R6 91.3%

・「学校評価アンケート」（保護者向け）で「学校は誰もが安心して自分の考えや思いを話せる学級の雰囲気づくりに努めている」の項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える保護者の割合を80%以上にする。

R5 96.9% R6 92.0%

・「学校生活アンケート」（児童向け）で「戦争や平和についての学習を通して平和の大切さがわかった」の項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。 R5 97.6% R6 98.6%

意見

- ・時間を守ることの大切さを日々指導してきたことで、児童の意識は向上していること、児童一人一人の特性や家庭背景を理解し共有することに努め、情報を共有し、児童に必要な関わり方を共通理解することができ、教職員全体で児童を見守る意識にも繋がったこと等を伝えた。学級でのいいところみつけや様々な活動を通して、自分自身の良さや個性に気づく機会を効果的に設定できたことが児童の自己評価向上に繋がった。多様性を認め合える子どもたちの育成を目標に国際理解教育に力を入れてきたことも目標達成の要因としてあげられると言えた。
- ・取組内容①の「時間を守って動いている」や取組内容④の「自分にはよいところがある」のアンケート項目において、肯定的な回答をする児童の割合が高く、目標を上回って A 評価であったことに対して、高い評価をいただいた。

年度目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

R5 国語	4～6 年のうち、1 学年が 1 ポイント以上向上
算数	4～6 年のうち、1 学年が 1 ポイント以上向上
R6 国語	4～6 年のうち、該当学年なし
算数	4～6 年のうち、2 学年が 1 ポイント以上向上
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86% 以上にする。 R5 83.3% R6 70.6%
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78% 以上にする。 R5 72.6% R6 67.8%

学校年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 39% 以上にする。 R5 46.6% R6 43.1%
- ・「学力経年調査」の国語科において、校内平均点と大阪市平均との差を昨年度より縮めるようとする。
- ・「学校評価アンケート」（保護者向け）で「学校は、「うがい・手洗い」「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の指導を行っている。」と「学校は、日々の給食や栄養指導などを通して、食に関する指導を行っている。」の項目について、肯定的な回答の割合が 90% 以上であることを継続する。

R5 95.7% 97.5% R6 93.3% 96.6%

- ・「学校評価アンケート」（児童向け）で「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きだ」の項目において、肯定的な回答の割合が、80% を上回るようにする。 R5 84.9% R6 85.1%

意 見

・英語教育については、英語モジュールを週に2回実施し、低学年は主に歌や手遊びなども取り入れながら楽しみながら取り組むことができている。また、毎週C-NETの先生に来てもらい、ネイティブの英単語やフレーズを聞きながら復唱できるようにすることで英語に慣れることができるようにした。しかし、「学校評価アンケート（児童向け）項目「外国語（英語）の学習が好きだ」に対して肯定的回答が70.2%であり目標（75%）には届かなかった。目標に対し約5ポイント下回っているため、英語教育における取り組み内容や指導方法に再検討が必要で、児童の興味を引くアクティビティの充実など授業の質を向上させるための工夫が求められると伝えた。高学年になると恥ずかしさや苦手意識を持つてしまう児童が見られたり、外国語の教科として評価を伴うため抵抗があつたりするため、どのように授業を組み立てていくかも難しい面があることに共感をいただき、取組を評価していただいた。

・体力向上に関して、校舎建て替え工事が始まり、運動場の使用制限があることにより、子どもたちが運動することや体を動かすことの楽しさを改めて実感しているようにも感じる。児童が運動やスポーツに対して積極的であり、体育での協働的な学びや休み時間のみんな遊びなど、運動を通じた学びや達成感の実感が効果的に表れていると考えられるため、今後も、意欲や達成感を高めることができるような体育科の学習の工夫を行っていってほしいという意見をいただいた。

年度目標

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

・授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%を超えるようにする。（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く）

R5月平均 62.8% R6 79.3% (4月～12月平均)

・「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を62.6%以上にする。 R5 62.5% R6 62.5%

※基準1

次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

（1か月の時間外勤務時間が30時間を超えないようにすること）

360時間 ÷ 12か月 = 30時間)

学校年度目標

・「学校評価アンケート」（保護者向け）で「学校は、ICT機器（パソコンやタブレット等）を活用した授業を行っている。」の項目について、肯定的な回答の割合を、昨年度に引き

続き 90%以上維持できるようにする。

R5 98.2% R6 94.6%

- 「学校評価アンケート」（児童向け）で「タブレットを使った学習が好きだ」（1～3年）「タブレットを使って学習することのよさに気づいている」（4～6年）の項目について肯定的な回答の割合が 90%以上にする。

R5 1～3年 96.4% 4～6年 93.9%

- 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない教職員の割合を 50%以上にするようにすること
(1か月の時間外勤務時間が30時間を超えないようにすること

360時間 ÷ 12か月 = 30時間)

R5 62.5% R6 62.5% (12月時点)

意見

- 今年度も、ICT 機器の活用推進をよりすすめ、児童の ICT 活用能力を向上させることができた。端末の基本操作、デジタルドリル navima の基本操作、マイク付きイヤホンの扱い方、ローマ字入力等、慣れることができている児童が多い。タブレット用の手提げを整備することで、端末を児童机の横に収納することができ、端末の出し入れや机上の整頓が容易となり、端末の活用率向上に役立った。ICT 機器活用については、大きな評価をいただいた。
- 取組内容④「家庭・地域等との連携」で地域や保護者と連携し、様々な取り組みを充実させることができたことに感謝を伝えたところ、委員の方々からも高い評価をいただいた。次年度以降の学校の取組をまとめた配付物をもとにした説明に対して、賛同をいただいた。今後も働き方改革をすすめていただきたいという意見をいただいた。

3 今後の学校運営についての意見

学校の取り組み内容は成果をあげているので、継続していただきたい。